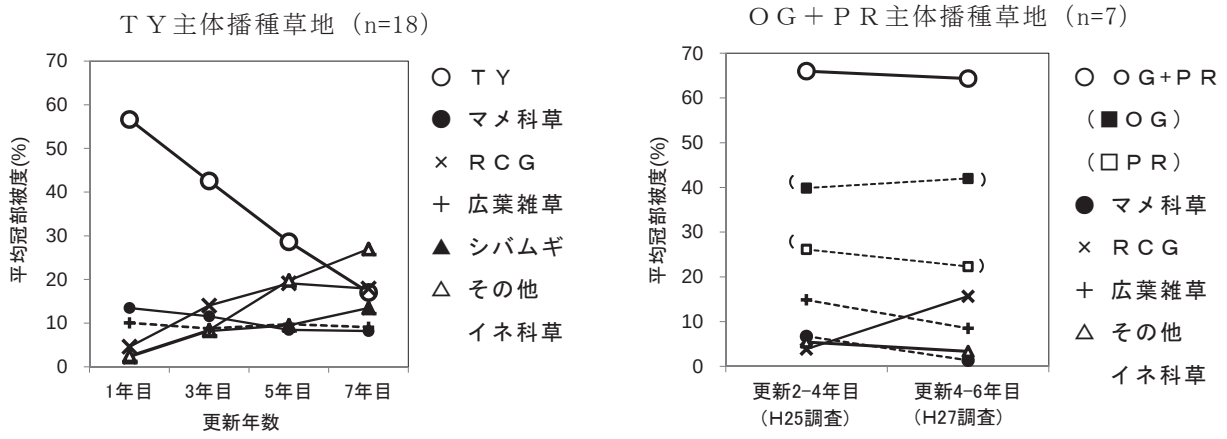

図１　天北地域におけるＴＹ主体およびＯＧ＋ＰＲ主体播種草地における更新後の冠部被度

１）調査時期：１年目は更新年晩秋、その他の年次は５月中～下旬。

表１　ＲＣＧとの競合を想定した条件でのＯＧ、ＰＲ導入が草種構成等に及ぼす影響

調査項目		RCG混播条件での導入[1)2)]				RCG主体草地への導入[2)3)]							
						前植生処理による除草剤				無除草剤			
		OG	PR	OP	TY	OG	PR	OP	TY	OG	PR	OP	TY
草種構成	播種草種	75.8	77.1	89.8	45.0	89.8	89.5	92.4	76.1	57.0	58.8	75.7	37.1
割合(生草%)[4)]	RCG	22.2	20.5	9.8	52.9	2.0	3.5	1.4	14.3	22.0	19.6	12.5	35.5
乾物収量(kg/10a)[5)]		649	710	780	579	1,024	999	1,155	1,057	548	583	795	564
WSC(%)[6)7)]		10.6	18.0	13.5	5.9	8.0	18.9	10.4	4.0	9.4	15.6	14.8	4.7
推定TDN含量(%)[7)8)]		64.9	71.2	67.0	56.3	61.1	70.4	63.7	55.8	62.8	69.8	67.6	57.1

1)RCG 0.4kg/10aと他草種2.0kg/10aを混播。播種3年目の8月播種ほの値(完全更新、施肥量：施肥標準に基づきOPはPRと同量)。
2)供試品種：OG「パイカル」、PR「チニタ」、TY「なつちから」。 3)RCG割合65%の草地を完全更新し、H26.7.27に播種した播種2年目の値。
4)2番草の値。 5)播種草種のみの年間値。 6)WSC：水溶性炭水化物。 7)雑草を含めた1番草の値。
8)推定TDN含量=－5.45+0.89×(OCC+Oa)+0.45×OCWにより算出。OCCとOaは近赤外線分析で得たOCW、Obにより求めた。

表２　ＯＧ、ＰＲ混播割合および施肥・刈り取り回数が草種構成等に及ぼす影響

調査項目		播種時のOG混播割合[1)2)]					施肥・刈り取り試験[1)3)]					
		100%(OG)	75%	50%(OP)	25%	0%(PR)	OG播種草地[4)]		RCG混播条件[5)]		RCG主体草地[6)]	
							年間3回	年間2回	年間3回	年間2回	年間3回	年間2回
草種構成割合[7)](生草%)	OG	93.2	62.9	54.7	50.0	0.0	94.0	92.8	61.0	66.1	55.5	61.1
	PR	0.0	31.5	41.7	47.3	95.2	―	―	28.8	20.0	36.9	25.3
	播種草種	93.2	94.4	96.4	97.3	95.2	94.0	92.8	89.8	86.1	92.4	86.4
年間乾物収量(kg/10a)		825	968	960	962	866	1,067	703	895	673	1,187	978
WSC(%)[8)]		10.3	11.2	12.4	13.2	15.5	―	―	―	―	―	―
推定TDN含量[8)9)]または収量(%、kg/10a)		65.8	67.1	68.5	69.6	73.0	681	420	543	400	720	563

1)供試品種：OG「パイカル」、PR「チニタ」で合計播種量は2kg/10a。 2)播種3年目の6月播種ほの値(完全更新、施肥量は施肥標準に基づき100%以外はPRと同量)。
3)年間3回の施肥量(N-P_2O_5-K_2O,kg/10a)はOG播種草地で18-6-15、それ以外は21-6-15。年間2回は年間3回の2/3の量。年間2回の刈り取り日は年間3回(適期刈)から15～20日後。 4)播種4年目の値(前植生処理後、簡易更新し、H23.8.10に播種)。
5)RCG0.4、OG1.0、PR1.0kg/10aを混播。播種3年目の8月播種ほの値(完全更新)。 6)RCG割合65%の草地を前植生処理後に完全更新し、H26.7.27にOP播種。
7)2番草の値。 8)雑草を含めた1番草の値。 9)推定TDN含量の算出法は表1と同じ。

表３　ＯＧ、ＰＲ導入によるＲＣＧ草地の植生改善（総括表）

導入草種	混播割合	更新方法	除草剤処理[2)]	維持管理時の施肥・刈り取り回数
OG、PRの混播	（当面暫定的に地域の一般的な播種重量において1：1とする）	完全更新	前植生処理が望ましい	年間3回が望ましい
			処理しない場合は改善効果が劣るが、一定程度の効果あり	
		簡易更新	前植生処理＋播種床処理が望ましい	

1)簡易更新は現地調査事例を参考にしている。
2)除草剤はグリサホート系除草剤で使用方法は北海道農作物病害虫・雑草防除ガイドによる。
3)施肥量はペレニアルライグラスの施肥標準に基づく。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。
道総研上川農業試験場天北支場　地域技術グループ　有田　敬俊
電話（01634）２－2111　　FAX（01634）２－4686
E-mail：arita-takatoshi@hro.or.jp